

(家庭数配布)



## 林間学舎に行ってきました！

今月16日・17日には、5年生の林間学舎がありました。これには教頭先生が同行しました。

いつもより早い集合時間にもかかわらず、全員遅れることなく集合。多くの保護者の皆様にあたたかく見送っていただき、いよいよ出発です。到着した鉢伏高原は緑に囲まれ、空気もとてもおいしく感じました。開舎式後の魚つかみでは、なかなかつかめず、全身びしょ濡れになる子もいましたが、みんなの協力で何とか全員分を確保しました。その後は鉢伏山登山です。参加した子は皆、頂上まで登り切りました。夜のキャンプファイヤーでは、大自然の中、燃え上がる炎を見ながら、ゲーム・歌・ダンスで楽しいひと時を過ごしました。

翌日は、朝から快晴。朝食として、カートンドッグ作りにチャレンジです。続いて荷物整理、これは全員とても素早くでき、部屋で友だちと楽しくくつろぐ時間がとれました。昼食は飯盒炊飯でカレーを作ります。薪に火をつけるところから始めなければならないので四苦八苦していたものの、その分、カレーの美味しさをよりいっそう感じる事ができました。最後のプログラムは絵馬作りです。素晴らしいお土産ができましたね。

5年生のみんなとともに過ごした1泊2日は、とても中身の濃いものでした。1人だけでは難しいことも、全員で協力すれば何とかできるということも学びました。この経験を、ぜひ今後活かして欲しいと思います。

最後に、事前の準備、見送り、お迎えと、様々にご協力をいただきました保護者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 失敗から学ぶことも多いです。

子どもたちは、毎日、一生懸命に生きています。その毎日が楽しいことの連続であればいいのですが、なかなかそういきません。時には、うまくいかないこともあります。そのことをどう活かしていくのか？ここが大事なところですよ。

友だちどうしの関係で嫌な思いをすることも、時にはあります。そんな場合、大人が安易に入り過ぎないことも必要と考えています。年齢がまだ低ければ、大人が間に入って仲をとりもってやることも有効です。しかし、だんだんと年齢が上がるに伴い、子どもたちも自分の思いも持つようになりますので、「Aさんとは遊んでもよい。Bさんとは遊ばないように。」などのように、大人があまり入り過ぎることも、時には考えねばなりません。

もちろん、重大ないじめ案件かも？という時は、大人が入って早急に解決してやらねばなりません。もめ事の内容によっては、自分たちで解決できるように見守ってやることも必要です。子どもは年齢とともに成長していきます。大人からのかかわりも、その年齢に応じて変えていかなければなりません。子どものためだからと、いつまでも子どもの気持ちそっちのけで、子どもの行動全てを管理するのもどうかということです。

いちばん大切なのは子どもに「力」をつけさせることです。その意味では、友だち関係だけに限らず、「うまくいかないこと」もひとつの経験として、ある意味では貴重な財産です。その「うまくいかないこと」を乗り越えることで、子どもは「力」をつけていくのです。（もちろん、身体的・精神的に致命的なダメージを負ってしまうことは避けなければなりません。）「失敗しないように、失敗しないように。」とすべての障害を大人が取り除いてしまうと、子どもにとって必要な「力」をつけるせっかくの機会を失ってしまうこともあります。成功もあり失敗もあり、いろいろ経験しながら成長していくのが子どもなのです。



### ◇来週は個人懇談があります。

来週には個人懇談を行います。教職員からは学校での学習面・生活面の様子をお伝えし、保護者の皆様からは、各ご家庭での様子をお伺いできればと思います。保護者の皆様には、大変お忙しい中、お時間をとっていただきますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。